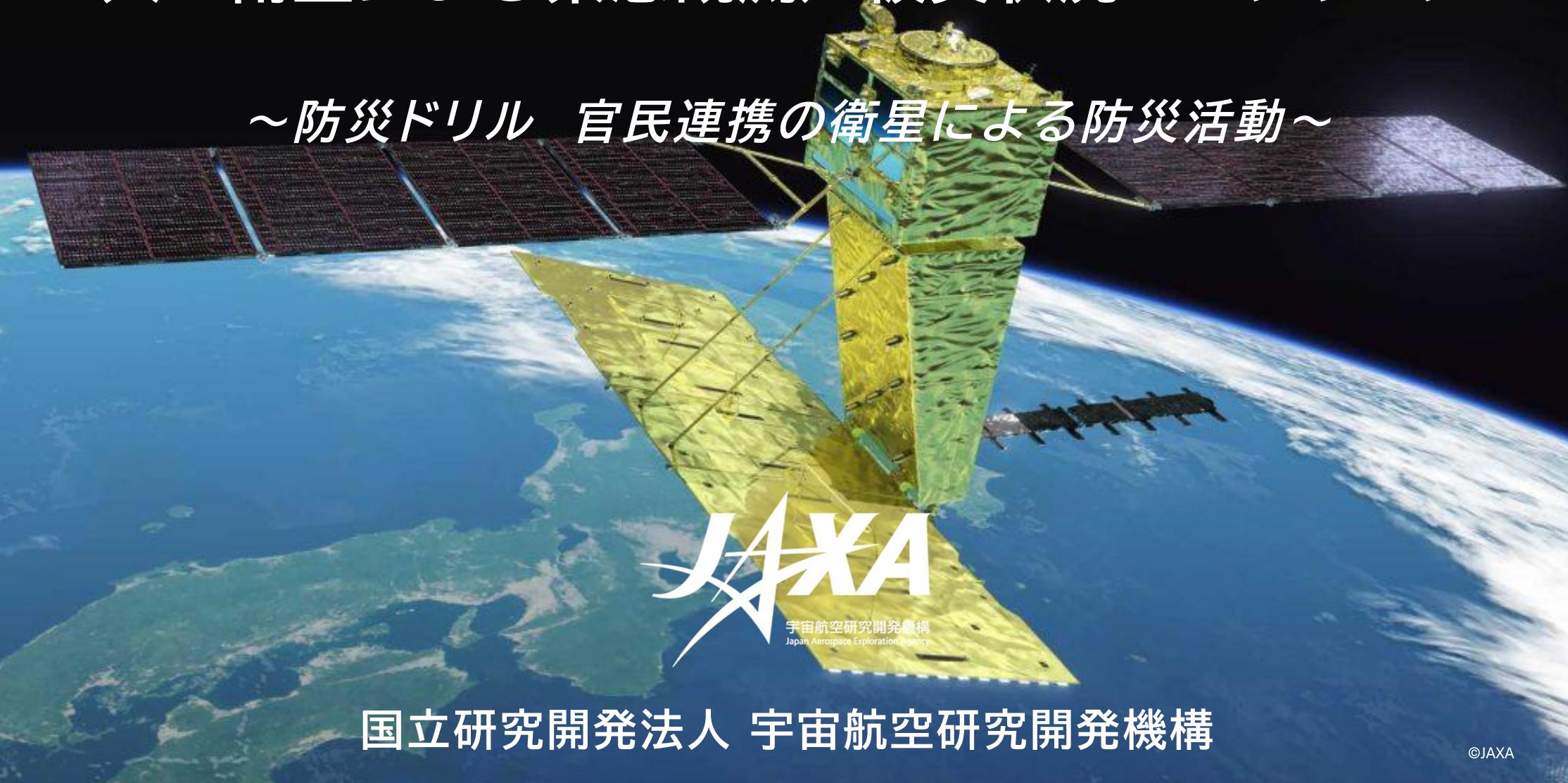


人工衛星による緊急観測／被災状況モニタリング

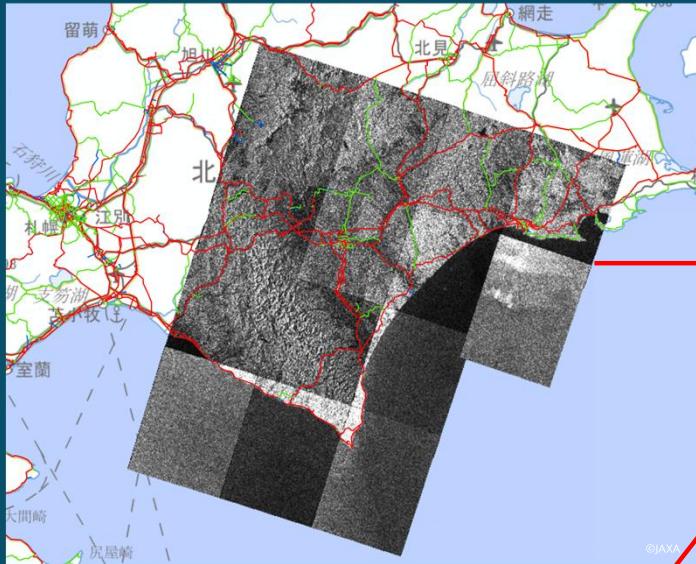
～防災ドリル 官民連携の衛星による防災活動～



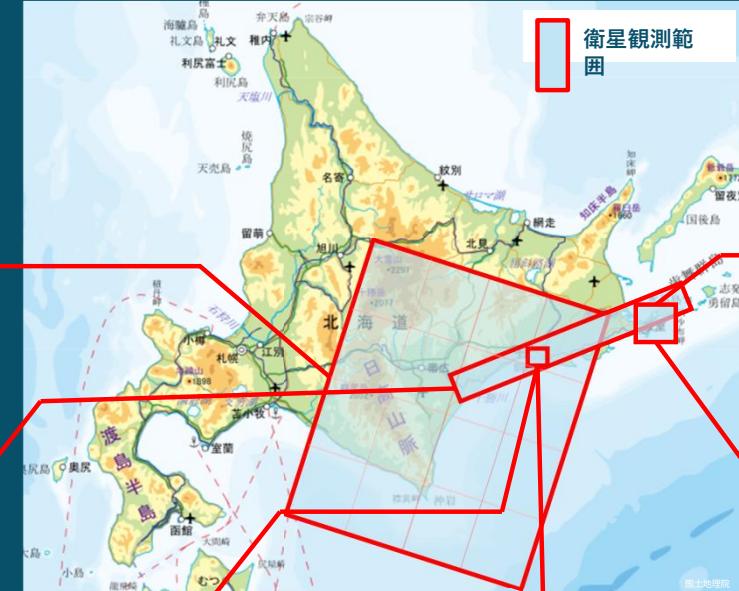
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

©JAXA

この画像は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が2024年7月に打ち上げた、地球観測をおこなう人工衛星「だいち4号」です。
国土交通省とJAXAでは、人工衛星による災害状況把握を実施しています。



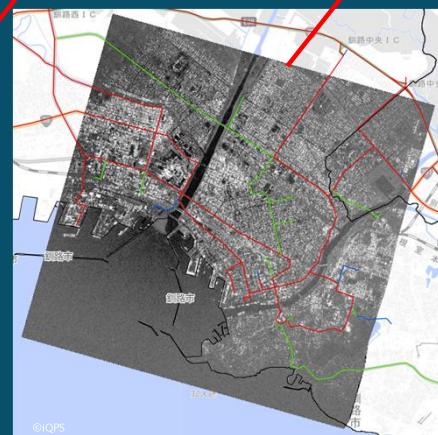
ALOS-2/4 ©JAXA(2025)
だいち2号 / 4号



GRUS ©Axelspace(2025)



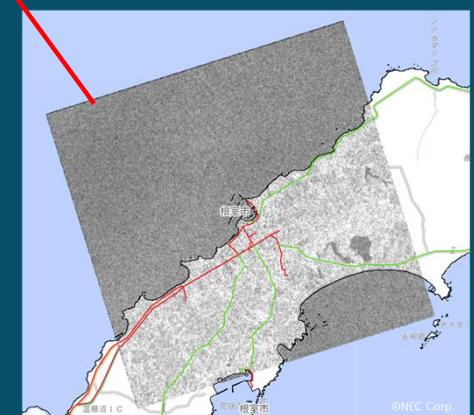
Strix ©Synspective(2025)



QPS-SAR ©iQPS(2025)



ASNARO-1
©NEC by PASCO(2025)



ASNARO-2
©NEC(2025)

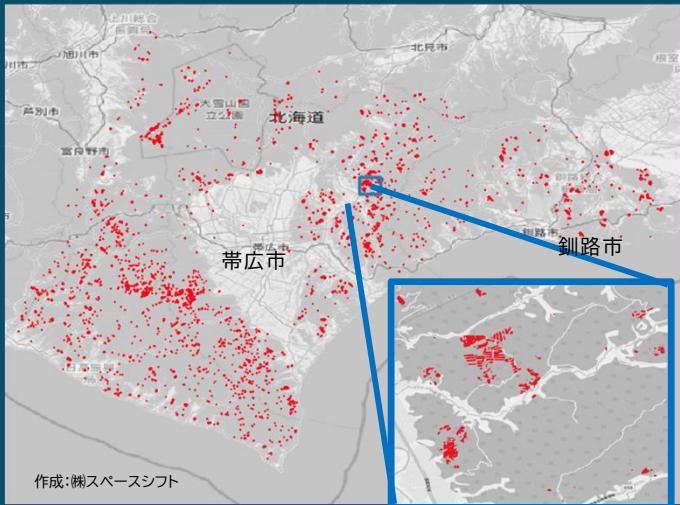


人工衛星は広範囲の情報を一度に観測できるメリットがあります。

今回の訓練では、JAXAのほか多数の民間人工衛星を活用して撮影をおこない、広域の被害状況の迅速な把握をめざします。

撮影後は速やかに地上にデータが伝送され、画像解析をおこなったのち、日本版災害チャータの運用システムで関係機関に被害推定情報として提供をおこないます。

人工衛星から被災地域の被害推定情報を提供



土砂災害(崩落)

作成:株スペースシフト
衛星画像:ALOS-2©JAXA(2025)

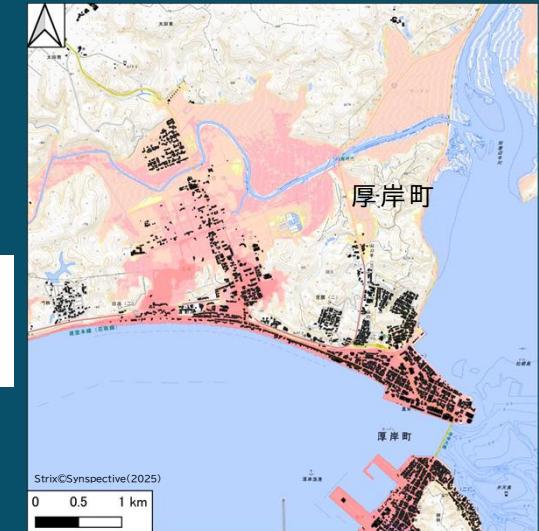


河道閉塞(青)/道路崩落(黄)

作成:松嶋建設株
衛星画像:ALOS-2©JAXA(2025)

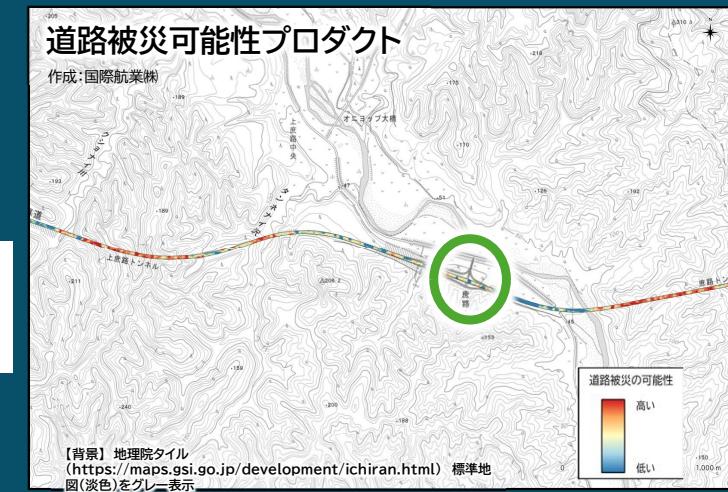
道路被害

作成:国際航業株
衛星画像:ALOS-2©JAXA(2025)



津波浸水/建物被害

作成:株Synspective
衛星画像:Strix©Synspective(2025)



その他、三菱電機株、株パスク、アジア航測株、株GLODALが本活動に協力



提供をおこなう情報は、土砂災害、津波による建物被害、河道閉塞、道路被害などの推定情報です。

衛星による津波浸水推定情報

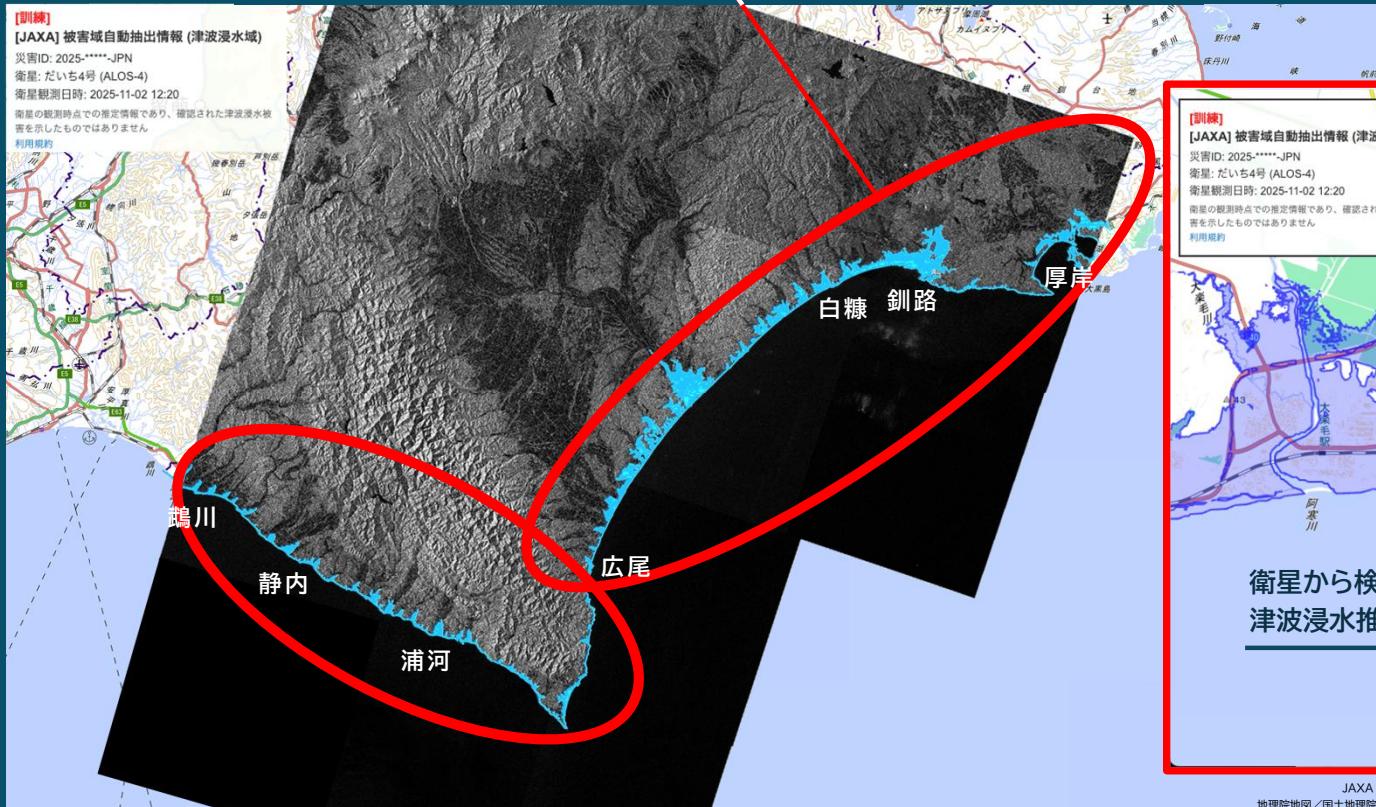
作成:JAXA

衛星画像:ALOS-4©JAXA(2025)

【訓練】2025年11月2日

北海道東部

「だいち4号(ALOS-4)」緊急観測(模擬)



国土交通省統合災害情報システム「DiMAPS」を通じて
関係機関に情報共有

JAXA防災インタフェース
<https://daichi-bousai.dpif.jaxa.jp>



例えば、観測約3時間後に、衛星画像解析による広域の津波浸水推定情報を提供します。

こうした情報は、JAXAと国土交通省の連携のなかで、国土交通省から統合災害情報システムDiMAPSを通して関係機関に共有し、被災地域の道路啓開などに活用することで、迅速な復旧への情報源として貢献します。